

家の履歴書 今は亡きあの人篇



[家の履歴書 今は亡きあの人篇 下载链接1](#)

著者:斎藤明美

出版者:キネマ旬報社

出版时间:2011-6-25

装帧:平装

isbn:9784873763521

『週刊文春』の人気連載「家の履歴書」において、著者・斎藤明美が記者時代から現

在までに取材・執筆した中から「今は亡きあの人」たち29名をセレクト。
著名人たちが語る「家」と「わが人生」の物語が、多くのことを教えてくれる。

作者介绍:

斎藤明美 [サイトウアケミ]

1956年、高知県生まれ。津田塾大学卒業。高校教師、テレビ構成作家を経て、『週刊文春』の記者を20年務める。1999年、初の小説「青々と」で第10回日本海文学大賞奨励賞受賞。2006年、フリーとなり、作家活動を行う。2009年、脚本家・映画監督の松山善三と女優・故高峰秀子の養女となる（本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです）

目录: 高峰秀子—その時の自分の身丈に合った生活をするのが理想
天本英世—彼女と住むはずの家で三十年間一人暮らし
川谷拓三—乗っ取ったも同然だった家内の実家
古今亭志ん朝—一つ屋根の下に赤の他人三家族が住んだ少年時代
丹波哲郎—祖父の家は2万坪、生家は3千坪、広い家はイヤだね
中野孝次—青春の苦渋に満ちた二畳間を一昨年書斎横に再現した
淀川長治—両親の寝室に並んだ枕を見て、父を憎み母を哀れんだ少年期
佐藤慶—嫌なものには徹底的に「NO」でも“家”はカミさん任せです
谷啓—新築の家が全焼。持ち出せたのはクレージーの衣裳と楽器だけ
藤岡琢也—結婚後十年間住んだ団地が僕の俳優としての哀歓を知っている〔ほか〕
・ ・ ・ ・ ・ [\(收起\)](#)

[家の履歴書 今は亡きあの人篇_ 下载链接1](#)

标签

高峰秀子

评论

[家の履歴書 今は亡きあの人篇_ 下载链接1](#)

书评

[家の履歴書 今は亡きあの人篇_下载链接1](#)